

『AS system』『AS platform』

デジタル活用で顧客と向き合う時間を創出し、顧客の納得感を高める対話はアナログで実践



アイリックコーポレーション
取締役副社長
たて けんじろう
建部 賢二郎氏

AS systemに沿って操作するだけで業法改正上も適切なプロセスを担保

改正保険業法への対応が本格化するなか、保険業界は大きな転換期を迎えています。金融機関の保険販売現場では、コンプライアンス対応や証跡管理などの記録業務が増加し、本来もっとも重視すべき顧客との対話時間が圧迫されているのが実情です。その結果、「説明は尽くしているものの、顧客の納得感が十分に高まらない」という課題が顕在化している金融機関もあるでしょう。

この構造を変えるには、業務のデジタル化によって「作業」を減らし、創出した時間を顧客との「対話」に再配分することが不可欠です。当社は、デジタルを「顧客と向き合う時間を生み出す手段」、アナログを「顧客の納得感を高める本質的な対話の場」と位置付けており、『AS system』と『AS platform』は、その実現のために開発したソリューションです。

AS systemは、加入中保険の可視化から、意向把握、商品比較・提案・記録までを一気通貫で支援するシステムです。保険募集の現場では、顧客意向に沿った商品提案や保障内容の重複防止が求められるため、加入中の保険を正確に把握することが重要になります。複数保険を一枚のシートでビジュアル化する「証券分析シート」は、保障内容や払込保険料の総額などを直感的に把握できる設計です。保険会社ごとに異なる商品内容も、共通

フォーマットで一覧化されるため、説明のしやすさが向上し、説明漏れや提案の属人化防止にもつながります。新機能の「証跡管理機能」は、比較した商品とその理由を、チェックボックスや定型コメントでスムーズに記録できます。テキスト化して出力でき、募集人による内容のばらつきも解消できます。

お客さま自身が現状を客観的に把握できる点も大きな特長です。現在加入している保障が自身の意向に合致しているかを能動的に確認できるため「なぜ見直しが必要なのか」を、納得感を持って理解していただけます。自発的な見直し意欲や定期的な接点創出をもたすため、無理な提案に頼らずとも、保険販売成果の向上が期待できるはずです。このシステムに沿って操作を進めるだけで、業法改正上も適切なプロセスが自然と担保されます。判断に迷うことがなくなるので、特にルール解釈に悩む場面では大きな安心につながるでしょう。

AS platformで募集人の情報格差を減らし、組織の生産性向上を支援

AS platformは、こうした活動を支える基盤です。複数の保険会社の商品を取り扱っていると、新商品情報や研修資料、保障内容データなど収集すべき情報が膨大になります。保険会社ごとに異なるIDやパスワードで各社のシステムを行き来するコストは軽視できません。AS platformならワンストップで

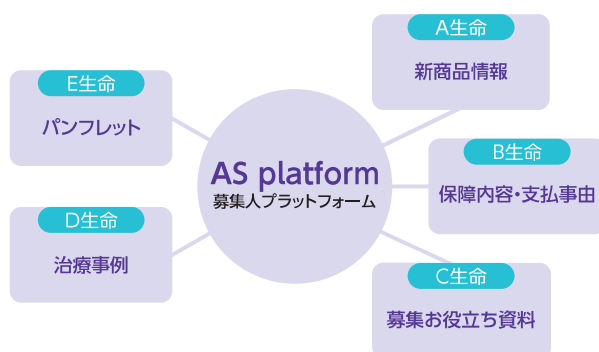
検索・活用でき、情報収集や提案準備の効率が高まる点がメリットです。FPや社労士など専門家によるコラムをはじめ、「募集活動に直結するコンテンツ」も充実しているので、スキルアップも同時に実現します。

当社が長年培ってきたデータベースを活用し、AS platformには保障内容を過去に遡って確認できる機能もあります。同じ名称の特約でも年度によって支払い要件が異なるケースもあり、この機能があれば安心です。

一方、管理者にとって重要なのは「問題が起きない仕組みづくり」です。AS systemを活用し、募集プロセスの標準化と可視化が進むことで、個々の判断に依存しない管理体制が構築できます。また、AS platformにより所属募集人の情報格差を減らし、組織全体の生産性向上を支援できます。結果として現場は安心して営業に集中でき、管理者は全体統制を効かせることができるでしょう。

当社が目指しているのは、顧客・販売者・保険会社の「三者利益(ベネフィット)の共存」であり、今回紹介したソリューションは、それを実現する一つの答えです。デジタルで業務を整え、アナログの対話で価値を伝える——。その両立で、顧客・金融機関にとっても、持続的な成長につながります。デジタルの活用で、一人ひとりが最大限のパフォーマンスを発揮できる、この新しい営業スタイルを、ぜひ体験してください。

共感と学びのプラットフォーム『AS platform』



こんな課題の解決に最適！

- ✓ 保険会社からの提供資料の整理が大変
- ✓ 効率的に情報収集をし、業務の効率を上げたい
- ✓ お客さまに旬な情報を正確にお届けしたい
- ✓ 今より成長・スキルアップしたい
- ✓ 担当ソリシターが忙しくタイムリーに連絡が取れない

『AS system』の概要はP.2をご参照下さい